

March 10, 2020

**【前日の為替概況】ドル円、一時 101.19 円 コロナウイルス感染や原油価格急落でリスク回避**

9日のニューヨーク外国為替市場でドル円は大幅に3日続落。終値は102.36円と前営業日NY終値(105.39円)と比べて3円03銭程度のドル安水準だった。新型コロナウイルスの世界的な感染拡大や原油先物価格の急落を受けて、投資家がリスク回避姿勢を強めると円買い・ドル売りが先行。現物の米国株相場が寄り付き後まもなく7%超急落し、「サーキット・ブレーカー(取引を一時停止)」措置が発動されると、リスク・オフの動きがさらに加速し一時101.19円と2016年10月以来約3年5カ月ぶりの安値を付けた。ただ、米国株の取引再開に向けてはショートカバーが優勢となり一時102.68円付近まで急速に値を戻した。市場では「日銀によるレートチェックの噂」もあった。そのあとは米国株の動きに合わせる格好で102円台前半から半ばでの不安定な値動きとなった。

なお、ダウ平均は一時2100ドル超の急落となったほか、ナイト・セッションの日経平均先物は大証終値比910円安の1万8500円まで売り込まれる場面があった。

ユーロドルは3日続伸。終値は1.1450ドルと前営業日NY終値(1.1284ドル)と比べて0.0166ドル程度のユーロ高水準だった。ドル円の下落や米長期金利の低下に伴うユーロ買い・ドル売りが入り一時1.1485ドル付近まで値を上げたものの、アジア時間に付けた日通し高値1.1495ドルを上抜けることは出来なかった。なお、ユーロ圏短期金融市場では12日の欧州中央銀行(ECB)理事会で0.10%の利下げが織り込まれているが、市場の一部では「利下げに加えて社債買い入れを通じた資産買い入れプログラムの拡大を決定するのでは」との見方が出ている。

ユーロ円は3日続落。終値は117.13円と前営業日NY終値(118.92円)と比べて1円79銭程度のユーロ安水準。米株式市場でサーキット・ブレーカーが発動されたことをきっかけにドル円が急落するとユーロ円にも売りが出て一時116.13円と昨年9月4日以来約半年ぶりの安値を付けた。ただ、ドル円が下げ渋ったほか、ユーロドルが上昇すると117.35円付近まで持ち直している。

**【本日の東京為替見通し】トランプバブルの終焉、リスクオフの動きは継続で100円割れも意識**

本日の東京市場のドル円は引き続き上値は限定的か。米株以外は2016年11月9日(現地時間8日)にトランプ氏が第45代米国大統領に決定したときに近い水準、もしくはそれ以下まで下落している。英独の2016年11月9日の引け値は、英FT100は6911.84(昨日引け値5965.77)、独DAXは10646.01(昨日引け値10625.02)で、当時の水準を下回っている。2016年の11月9日の日経平均はトランプ氏が就任することに対して米国の信頼の低下などを予測し、アジア時間にドルや株が売られ919円安の16251円で引けている。しかし、トランプ・バブルを期待し、米国の株高に歩調を合わせるように日経平均もじり高となり11月18日には18000円を上回った。昨日のCME225先物は18875円で引けているが、日銀による30兆円近いETF買いなどのサポートを考慮すると、日経平均もトランプ・バブルがすべて弾けたと考えても良いだろう。

ドル円も同様に101円台まで戻しているが、新型コロナウイルスの蔓延を考えると、2016年8月以来となる100円割れを目指す展開も予想される。今回のドル安を止められないのはトランプ大統領就任後、大統領が自ら世界的な協調体制を破壊させたことも要因だ。トランプ米大統領の今までの発言でもドル安を望んでいることで、米株の下げを止めることには尽力するだろうが、ドル安を止めることは考えにくい。昨日はブラジルなど新興国では介入を実行しているが、トランプ政権にべったりの安倍政権が為替介入に動くことは考えにくいだろう。その中で昨日は日銀のレートチェックのうわさでドル円が戻す場面もあった。円高局面で日銀が各銀行に電話をかけることは日常茶飯事だが、大幅な円高局面の時は金融機関に介入の可能性を示唆する場合もある。しかし、今までと明らかに違うのは、以前は日米およびG7内では協調体制がそれなりに整っていたが、現時点では体制が整っていないことだ。今後も日銀の電話でレートチェックといううわさが流れるだろうが、時間が経つにつれその効果もなくなってくるだろう。

円売り材料としては、日本国内の感染者数が大幅増加することによる日本売りもあり得るが、イタリアを中心とした欧州の感染者拡大がユーロ売りにはなかなかならないこともあり、すぐに円売りに反応するのは難しいか。日本航空の客室乗務員の感染が公表されたが、先月24日に発症していたのにも関わらず公表に2週間もかかっている。政府が意図的に感染者数の公表を控えていたり、現時点でも控えていたりする可能性もあるため、今後の感染者数の増加には注目しておきたい。

ドル円以外では、欧州通貨は比較的落ち着いた動きだが、原油価格が乱高下していることでカナダドル、ノルウェークローネなどの産油国通貨の動きには引き続き警戒しておきたい。

なお、経済指標では通常は注目度が高い、2月中国消費者物価指数（CPI）、生産者物価指数（PPI）が発表されるが、今回は経済指標に為替が反応するのは難しいだろう。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

○08:50 ◇ 2月マネーストック M2（予想：前年比 2.8%）

### <海外>

○09:01 ◇ 2月英小売連合（BRC）小売売上高調査（予想：前年同月比 0.5%）

○09:30 ◇ 2月豪 NAB 企業景況感指数

○10:00 ◎ オア・ニュージーランド準備銀行（RBNZ）総裁、講演

○10:30 ◎ 2月中国消費者物価指数（CPI、予想：前年比 5.2%）

○10:30 ◎ 2月中国生産者物価指数（PPI、予想：前年比▲0.3%）

○16:00 ◎ 2月ノルウェーCPI（予想：前月比 0.3%／前年比 1.6%）

○16:00 ◇ 12月トルコ失業率（予想：13.5%）

○16:45 ◇ 1月仏鉱工業生産指数（予想：前月比 1.8%）

○19:00 ☆ 10-12月期ユーロ圏域内総生産（GDP）確定値（予想：前期比 0.1%／前年比 0.9%）

○11日 02:00 ◎ 米財務省、3年債入札

○インド（水掛け祭）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

9日 12:25 アーダーン NZ 首相  
「イランと中国からの旅行者はコロナウィルス対策としてもう7日間隔離する」

9日 12:51 麻生財務相  
「神経質な動きがある感じは受けている」  
「しばらくよく見ておき、慎重に見極める」  
「為替介入の可能性にはコメントしない」

9日 14:32 黒田日銀総裁  
「投資家のセンチメントが悪化している」  
「市場では神経質な動きが続いている」  
「日銀も方針に沿って適切に躊躇なく対応する」

9日 14:42 麻生財務相  
「今の段階で金融でやれる範囲はかなり限られる」  
「金融だけでなく、財政も対応していかなければならない」

9日 16:04 武内財務官  
「過度な変動は望ましくない」  
「為替のコメントは控える」  
「これまで以上に緊張感をもって注視する」

9日 16:32 ビルロワドガロー仏中銀総裁  
「新型肺炎により第1四半期 GDP 見通しを0.3%から0.1%に下方修正」

9日 18:06 国際エネルギー機関(IEA)  
「今年の石油需要は2009年以来の減少を見込む」

9日 22:27 英首相報道官  
「英中銀は財政・金融の安定維持のため、あらゆる必要な手段を講じると表明している」

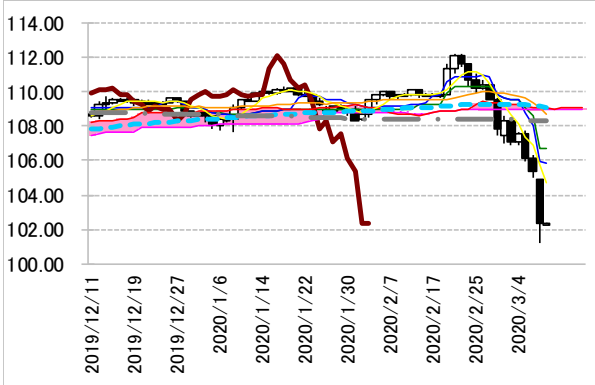
9日 23:42 トランプ米大統領  
「ガソリンの下落は消費者にとっては良い」  
「サウジアラビアとロシアは原油巡り議論。これとフェイクニュースが市場下落の理由」

10日 00:43 アザール米保健福祉長官  
「トランプ政権には経済を堅調に保つための手段がある」

10日 01:51 テドロス世界保健機関(WHO)事務局長  
「(新型コロナウイルスの感染拡大を受け)パンデミック(世界的大流行)の脅威が現実味を帯びてきた」  
「制御は可能」

※時間は日本時間

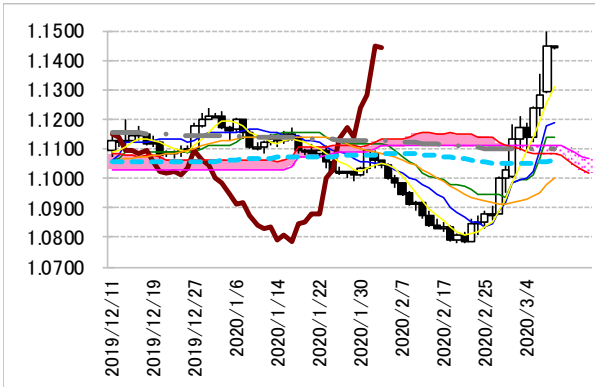
## 〔日足一目均衡表分析〕



### <ドル円＝下げ渋るも、まだ明確な反転・上昇の示唆なし>

下影大陰線引け。下げ止まりのめどとして確信が持てるようなポイントが乏しいなか一時 101.19 円と、2016 年安値 11 月 9 日の下振れ場面でつけた安値 101.20 円をわずかに割り込む水準まで下落が加速した。下げ渋っているものの、反転からさらに上昇へ向かうまで明確なサインはまだ認められない。安値がそろそろ毛抜き足など、潮目の変化を示唆するパターンの形成を模索する渦中といえる。

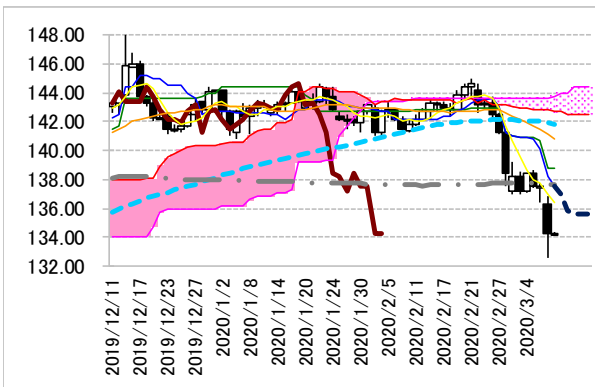
レジスタンス 2 103.50(3/9 レンジ 61.8%水準)  
レジスタンス 1 103.06(3/9 レンジ半値水準)  
前日終値 102.36  
サポート 1 101.19(3/9 安値)



### <ユーロドル＝上昇波形を維持して強い基調を維持へ>

上影大陽線引け。一時 1.1495 ドルと、昨年 1 月 31 日以来の 1.15 ドル回復に迫った。同大台を前に伸び悩んだが、先週末 6 日に上ひげを形成して伸び悩んだ際につけた高値 1.1355 ドルを割り込まない限り、短期的な視点で見ても上昇波形は継続。高値圏で警戒感はあるが、強い基調を維持しそうだ。

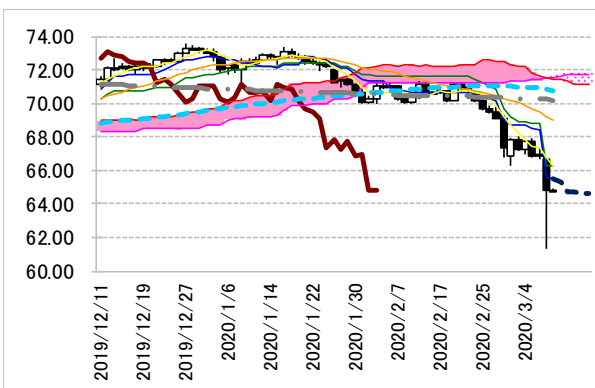
レジスタンス 1 1.1534(ピボット・レジスタンス 1)  
前日終値 1.1450  
サポート 1 1.1355(3/6 高値)



### <ポンド円＝転換線の横ばい局面を攻略できるか>

下影大陰線引け。一時 132.59 円と、昨年 10 月 10 日以来の水準へ下振れた。昨年 8 月 12 日につけた同年安値 126.55 円から 12 月 13 日高値までの上昇幅に対する 61.8%押し 134.73 円を下回った同水準で下げ渋り、下値の堅さを示唆する長い下ひげを形成している。このまま現水準で足場を固めて上昇へ向かいたいところ。137.57 円でまだ低下中の一目均衡表・転換線が、現状からすれば今週末から来週前半にかけて 135.64 円で横ばいになる見込み。そのタイミングで同線を上抜くことが、戻り基調に乗るための条件となりそうだ。

レジスタンス 1 135.24(3/9 レンジ 61.8%水準)  
前日終値 134.32  
サポート 1 132.59(3/9 安値)



### <NZドル円＝売り込まれた反動の流れで転換線に乗りたい>

下影大陰線引け。2012 年 7 月以来の 61 円台まで下落が加速した。かなり突っ込み気味に売り込まれた反動で、65 円台まで反発した。戻り売り圧力にさらされそうだが、65 円台で低下中の一目均衡表・転換線が 64 円台まで水準を下げたところうまく乗ることができるか見定めることになりそう。押し返されても同線付近でリバウンドできれば、戻り歩調をたどることができそう。

レジスタンス 1 65.52(日足一目均衡表・転換線)  
前日終値 64.87  
サポート 1 64.00(3/9 レンジ半値水準)

